

## ■北海道大が3年ぶり27度目の優勝、 パインボウルで東北大と対戦へ。第8節

第48回北海道学生選手権は第8節の10月16日、札幌市円山競技場で1部の2試合を行った。4戦全勝同士の対戦となった北海学園大（前年優勝）－北海道大（前年2位）戦は、北海道大がRB工藤輝一（4年、兵庫・白陵高）の3TDの快走などで42－14と快勝し、3年ぶり27度目の優勝を決めた。北海道大は、全日本大学選手権（甲子園ボウル）の1回戦を兼ねるパインボウル（11月13日、ユアテックスタジアム仙台）で、東北学連代表の東北大と対戦する。3敗同士の顔合わせとなった北星学園大－東京農業大戦は7－7で引き分けた。

4年連続で優勝をかけた一戦となったライバル対決は、第1Q5分、北海学園大LB池原響生（2年、伊達緑丘高）のインターセプトリターンTDで熱戦の火ぶたを切った。続く北海学園大のキックオフで、今度は北海道大が見せた。リターナーも兼ねるWR宮崎大地（3年、兵庫・星陵高）が78ヤードのリターンTDですかさず同点に追いつくという、がっぷり四つの幕開けになった。



先にリズムをつかんだのは北海道大だった。北海学園大の攻撃でファンブルを誘い、DL浅井聡太（3年、東京・都立西高）がリカバー。続く敵陣18ヤ-

ドからの北海道大の攻撃で、R B工藤が左オフタックル付近を抜けると、D Bをかわして力走し、あっさりT Dで14-7。工藤は第2Q5分にも敵陣4ヤードからの攻撃で右オープンを走り、この日2つめのT Dを奪い21-7とリードを広げた。

第3Qには北海道大のパス攻撃が炸裂した。敵陣20ヤードからQ B茨木大輔（4年、兵庫・六甲学院高）がWR本郷維規（4年、兵庫・市立西宮高）へ17ヤードを通してエンドゾーンに迫ると、最後はQ B茨木からWR宮崎へ3ヤードT Dパス。28-7とした。さらにQ Bサックなどで得た敵陣43ヤードからの北海道大の攻撃では、Q B茨木のキープで敵陣26ヤードまで進み、最後はR B工藤がこの日3本目のT Dランで仕上げた。



北海道大の35-7で迎えた第4Q。3分に北海道大がR B榊琢也（3年、札幌東高）の13ヤードランで42-7とダメ押しのT Dを奪うと、北海学園大が意地を見せた。北海道大のF G失敗で得た自陣23ヤードから攻撃権を得ると、Q B河合祐輔（4年、札幌第一高）からWR佐藤伶哉（4年、登別明日高）とWR寺川隆吾（4年、北海高）へのパス、R B山本遼太（4年、札幌国際情報高）とR B丸川祐生（4年、北海高）のランでボールを進めると、終了10秒前にQ B河合からWR寺川へ1ヤードT Dパスを決め、42-14とした。

北海道大の西尾慎太郎HCは「工藤のランを含め、準備したことを選手たち

が体現してくれた。最初の攻撃シリーズで点が取れなくても、キッキングチームが点を取るなど、O（オフェンス）、D（ディフェンス）、K（キッキング）の三位一体で勝てた」と選手たちをねぎらい「北海道王者は通過点。3週間しっかりと準備をして次に臨みたい」と先をにらんだ。大事な一戦で3TDと大暴れのRB工藤は「低いタックルを警戒したが、あまりなかった。ラインのおかげでスクリメージラインをすんなり抜けられた」とチームプレーを強調しながら「仙台グリーンボウルではランプレーで走れなかったので、パインボウルでリベンジしたい」と宣言した。一方、北海学園大の高木幸樹HCは「力負けです。連続して勝つのは難しい。先制点を挙げたが、その後は得意なところを出せなかった」と完敗の弁。LB松本竜輔主将は「後輩たちには部員を増やし、フィジカルをもっと鍛えて雪辱してほしい」と巻き返しを託した。



第1試合は、不戦敗1試合を含めて3連敗の北星学園大と、3試合連続不戦敗で初実戦となる東京農業大の対戦。0-0で迎えた第2Q、北星学園大がWR/LB中田大翔（2年、北星学園大付属高）のインターセプトで敵陣27ヤードで攻撃権を得ると、QB中手龍一（3年、札幌静修高）がWR中田へ連続でパスを決めて待望のTDを奪った。

一方、東京農業大は第3Q開始直後、相手ファンブルで得た攻撃シリーズで、QB金井康晴（3年、神奈川・舞岡高）がWR戸田省吾（2年、東京・関東国際高）への37ヤードTDパスを決め、同点に追いついた。その後は両

チームとも決め手を欠き、終盤に勝ち越しを狙ったFGもともに失敗し、引き分けた。

北星学園大の山下友一監督は「自分たちのミスで試合の流れを手放した。あと1試合、きょうの試合をしっかりと反省したい」と巻き返しを決意。TDを決めたWR中田は「QBの調子が悪かったので、レシーバーでもり立てようと思った。TDパスは、何も考えずにボールに集中した」と振り返った。東京農業大のWR戸田は「最初にミスをしていたので、QBにお返しをしたかった」と胸を張り、あと少しで勝ち越しTDだった第4Qの55ヤードのパスキャッチは「エンドゾーン前で足が動かなくなった」と悔しがった。

